

7 河川空間の利用状況

7-1 舟運の歴史

河川の利用については、舟運が古くからあり、中世（平安～鎌倉時代）の熊野御幸にはじまり、江戸時代に入ると流域の材木の筏流しや炭、農作物の運搬における三反帆などの舟運利用が活発となり、その後、プロペラ船も活躍し、昭和初期まで続いた。昭和30年代に国道の開通やダム建設により、舟運は衰退していくが、観光船などに形を変えて利用は続いている。

河口付近の右岸にある池田港は、熊野詣における伊勢路からの参詣で熊野川を渡る「鵜殿の渡し」があった場所で、昭和10年の熊野大橋仮設後も「池田の渡し」として残った。幕末には丹鶴丸（洋式軍艦）が建造され、明治から大正時代には、材木や木炭輸送の拠点として活況した港でもある。



筏流し



三反帆



プロペラ船



昭和初期の池田港

資料：目で見ると 新宮・熊野の100年／郷土出版社

7-2 河川の利用状況

熊野川の河川敷は広い空間を有し、河川敷で行われている様々な行事やスポーツを通じて流域の住民に親しまれる場となっている。

新宮市では8月に「新宮花火大会（熊野徐福万燈祭）」が開かれ、約4万人の人々が参加する。また、10月の「御船祭（熊野速玉大社例大祭）」でも約1万人が参加する。このほか、5月に「熊野川カヌーマラソン大会」、7月に「七夕まつり」が行われている。

観光活動調査によると、平成18年度の年間河川利用者総数は4万5千人である。

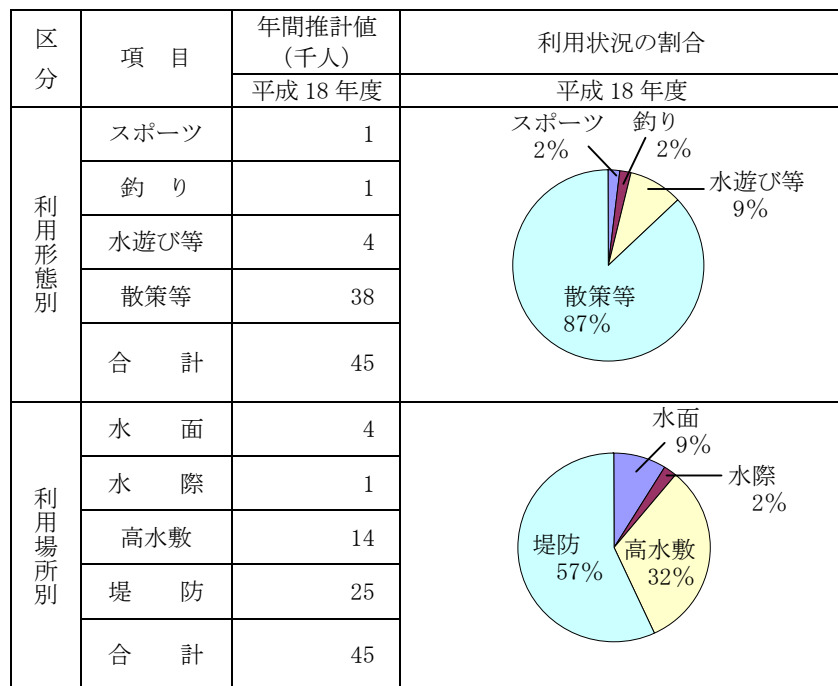


図7-1 年間河川空間利用状況（熊野川）



御船祭（熊野速玉大社例大祭）



新宮花火大会（熊野徐福万燈祭）

表 7-1 熊野川流域の河川利用

利用内容		関係市町村
観光舟運等	筏下り	和歌山県北山村、三重県熊野市
	ラフティング	和歌山県北山村、三重県熊野市、奈良県十津川村
	漕ぎウオータージェット船	和歌山県新宮市、三重県熊野市、奈良県十津川村
	カヌー教室	和歌山県新宮市、三重県熊野市
	川舟下り	和歌山県新宮市、三重県熊野市
	レンタルボート	奈良県上北山村、下北山村、和歌山県北山村
キャンプ場	天川村みずのみキャンプ場	奈良県天川村
	天の川オートキャンプ場沢谷	奈良県天川村
	坪の内オートキャンプ場	奈良県天川村
	オートキャンプ栃尾	奈良県天川村
	アドベンチャーランド奥高野	奈良県野迫川村
	宮の向いキャンプ場	奈良県野迫川村
	赤谷オートキャンプ場	奈良県十津川村
	谷瀬つり橋オートキャンプ場	奈良県十津川村
	渡瀬みどりの広場キャンプ場	和歌山県田辺市
	川湯野営場木魂の里	和歌山県田辺市
行祭事	御渡祭（熊野本宮大社例大祭）	和歌山県田辺市
	御船祭（熊野速玉大社例大祭）	和歌山県新宮市
	熊野川ノボリフィッシングコンテスト	和歌山県新宮市、三重県熊野市、紀宝町
	カヌーマラソン	和歌山県新宮市、三重県熊野市、紀宝町
	土と緑の学校	和歌山県新宮市
	相野谷川子供夏まつり	三重県紀宝町
	清掃活動	和歌山県新宮市、三重県紀宝町
	新宮花火大会（熊野徐福万燈祭）	和歌山県新宮市



出典：各市町村ホームページ

スーパーマップル関西道路地図/昭文社 (2006)

図 7-2 新宮川水系での河川利用

7-3 高水敷の利用状況

河川の区域の面積は 272.1ha、そのうち、利用可能な高水敷の面積は 64.2ha である。
高水敷における河川占有施設の面積は 2.68ha で高水敷（3号地）の約 4%を占めている。

表 7-2 河川区域面積内訳

	低水敷地 (1号地)	高水敷地 (3号地)	堤防敷地 (2号地)	計 (ha)	割合 (%)
公有地	182.0	57.8	22.2	262.0	96.3
民有地	3.5	6.4	0.2	10.1	3.7
不明地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	185.5	64.2	22.4	272.1	—
割合(%)	68.2	23.6	8.2	—	100.0

出典：河川管理統計報告書 国土交通省 H19

表 7-3 高水敷占有施設内訳

種 類	面積 (ha)	割合 (%)
運 動 場	1.78	66.4
その他 (公園等)	0.90	33.6
計	2.68	100.0

平成 19 年 4 月 30 日現在